日光供奉天保録

弐

ワ 3
1441
2

門 弟 1661 巻 二

二巻目次

六月十五日
一 [illegible]

十七日
一 [illegible]

十八日
一 [illegible]

十九日
一 [illegible]

六月九日
一 [illegible]

十日
一 [illegible]

十三日
一 [illegible]

明治廿七年二月十三日
内務部考査部

六月

一 [illegible]

七月

一 [illegible]

八月

一 [illegible]

六月

一 [illegible]

六月

一 [illegible]

八月朔日

一 [illegible]

九月十四日

一 [illegible]

六月十四日

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

十七日

一 順路帰府及ハ[illegible]

事件年代月晩山
御宮 御番[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 侍 四人
一 具足箱持 壱人
一 弓武張壱人
一 打物壱人
一 鞍笠 壱人
一 茶屋壱人
一 傘持 壱人
一 馬壱疋口付 壱人
一 打物張 壱人
一 [illegible] 壱人
一 [illegible] 弐人

都合拾七人

一外ニ新見藩御扶持　拾人

右通ハ差出ス筈

宮方月

[illegible]人ハ[illegible]
吉村又右衛門

十八日

一　御行列ニ加ル為御書状御書付を將監殿ニ差出シ[illegible]
[illegible]

御行列ハ[illegible]書付

[illegible]人ハ[illegible]
吉村又右衛門

来ル年四月日光山
御宮　御参詣ニ[illegible]人ハ供奉[illegible]不及ハ[illegible]
[illegible]振合ヲ組員ハ[illegible]御行列ハ[illegible]動

[illegible]ハ御先[illegible]御行列ハ[illegible]
年寛文三ヶ年十月
御社参ニ[illegible]御行列組員ハ[illegible]人節ハ[illegible]
[illegible]御行列ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

乱妨致し候ハ、内心に相覚悟仕候旦組内
平穏に召帰し候ハ、行幸相済ハ、直に相引
次第に市引之上ハ恩賞組恩賞市行列に
此上通ハ組合一列に赤穂ハ仕候 御外様不参ハ被仕度相願
幸願ハ以上

寅六月

市行列供奉名前之事

手人 行事 吉村又右衛門

手人 行事 吉村又右衛門

来市年四月晦日光山
御宮 御宮ハ清水に参詣ハ別紙
願書之中上り通ハ光山を為し組出張ハ仕

如手人ハ被仕度 享保度ハ光山仕来ハ一体仕来ハ御流儀
元和年中 大坂 市陣し御
権現様ハ供 御長柄ハ 秋元光組信田軍ハ中村原九郎 吉村
助九郎 山本原左 打出稲荷御 各組し者を以て 雨皮拵
御長柄を 肩に担ぎ
台徳院様ハ供 石後居御長柄 信田家ハ軍事九郎 吉村原左衛
信田家九郎 光組信田様 各組し者を以て 雨皮拵し 御長柄を
肩に担ぎ 御行列に 之ハ供仕候 ハ雨天後
御上洛日光山
御社参ハ 御行 御行列 秋元組し者 通 御行列 おゝ
寛文三年四月日光山
御社参 信田軍ハ 御行列 ハ仕候 享保十三申

年二月日書

御社家衆御作事奉行

中後筆記等ハ御作事ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月九日

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月九日

一　備前屋文通

志村又右衛門

別紙三石二斗遣書之指越申候

[illegible]

六月九日

勝田將監

右書面之趣申渡

[illegible]

日光山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此野書此如き所にて下ヶ有し御公面承度と仰せ書間に合兼
此段を不安者に存ず然る後書此桃灯に張替を而
此指支と仰有し此段承知仕度旨細段承知仕度旨御公
宝六月

十日

一 藏屋敷より長用方中井敬右衛門来り此如き所
上覧高郷仕まつり
上覧ありつる後事に存ず若し仰付られ其旨申渡
此桃灯仕度の事に付書者
日光山

一 御用に付二張此桃灯二張此度仕上り
差支なく此如き所今迄一切仕事不致仕
御行列
上覧之日差
右之通登 城仕御長柄此雲間々相下ヶ
差 御三城此泊 差御上 御長柄此雲間に相納る
暮に成る 右之桃灯 御長柄の方
私祖父 又右衛門 此仕其長に桃灯を 御道具組同心に
御城出入 甚長支 難仕 依て 何卒此度
仕度奉存 以上

宝六月十日

子人 此野屋
吉村 又右衛門

十二日

一 去年中度々荒し通書面差出且石橋、植木等に供し和市ヶ原より長崎口上ヶ
中屋敷

差出申候

一 産人一ツ市ヶ瀬中上荷書付ヶ通
一 米解流ヶ瀬中上荷書付ヶ通
一 組頭ヶ瀬中上荷書付ヶ通
外組頭ヶ預書写ヶ添

右ヶ通差上申候

宗六月十二日

志村又右衛門

産人馬ヶ瀬中上荷書付

千人代行賀
志村又右衛門

右ヶ新所ヶ下り荷ヶ日光迄ヶ右同様ヶ下り

人足五人
内三人組頭

右ヶ新所ヶ下り荷ヶ日光迄道中往返通ヶ市用ヶ心ヶ

右同人組頭ヶ
産人足五人

右市中ヶ出ヶ産ヶ分

右ヶ通出ヶ産ヶ以上

宗六月

志村又右衛門

宿々觸流し候申上書

文久元年
志村又右衛門

右来卯年四月日光山

八王子宿
日野宿
府中宿
布田五ヶ宿
石井戸宿
内藤新宿
玉川
板橋
浅川
川越

御宮　御案内仕候ハヽ御用ニ付御供仕候ハヽ右御用ニ付御供仕且
宿々ニ而人馬不宿取ニ而ハ不相成ハヽ速帰ニ而ハ相成ハヽ
相成ハヽ夜ハ中ニ而ハ相成ハヽ
觸流ハヽ飛脚ハヽ仕候事ニ付
文久元年

廿六日

一　三閑屋ヶ文通ヶ別紙ハヽ買ヶ手書ハヽ
ニ付人馬ニ而ハ急ヶ合書損ニ付
志村又右衛門

寛文三卯年四月日光
御社参ニ付人馬
駕馬ヶ供仕ハヽ且其宿ヶ人馬ヶ

大殿様御参詣
御城地之内御中食ニ而被遊
六月廿四日

一 書物之通

寛文三年供ニ成ル年ハ三ツ書

寛文三年六月日光
御社参ニ付而人馬宿田村三郎兵衛
引渡ル仕法

三河吉田藩
勝田将監殿

都筑三郎兵衛
佐藤三郎

手代
志村又右衛門

右之通申上ル
六月廿六日

七月三日

一 夕刻勝田将監殿ヶ文通ヶ月ハ昇元安書ニ元和元年ニ元和元年ニ上ル申出ル様ニ中出ル
元和元年ニ及ル言ヶ成ル通事ヶ中ヶ

寛文度日光
御社参ニ成ル列ヶ内人馬ヶ人馬駄賃ヶハ供ニ成ル
言ヶ人ヶ成ル年ヶ四年ヶ月ヶ
安永度
御光参年寄元ヶハ添御列外ハ光ハ供仕ル
右ヶ何度寛文

手代
志村又右衛門

[illegible]

右之通遠藤[illegible]

[illegible]年月日[illegible]遠藤[illegible]

右之通長[illegible]

[illegible]

七月三日

三岡[illegible]

勝田[illegible]

柳[illegible]

[illegible]

四月

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛文[illegible]日光

[illegible]社[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]陣[illegible]

市代[illegible]　市上[illegible]

市社[illegible]

市[illegible]

本年[illegible]

宗七月[illegible]日

[illegible]人[illegible]

志村又[illegible]

八日

一　[illegible]

本年四月[illegible]

市告　市[illegible]

[illegible]人[illegible]

志村又[illegible]

[illegible]大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山役之儀金同心五類、去今第事業川仕寶永年中迄
以 御代官も与力山役に付金与力に准し勤方お得其心
平常も不依行事組同心立帰方骨折お勤の後之役に相成
前条も中上に通 平同心之儀勤筋に別に成に 院宣改役に改に
御代官組頭原本に陣屋の脇に居に 持添抱し後は職切に 御代官組
に持つ三拾俵 仕る者は其代に金三拾俵 仕る者は三拾俵 仕る者は
於日光在勤し者は 五人 捜拾苑 於下在平同心は 苑に通三人捜拾苑
於日光在勤し者は 天正慶長年中に 川後代に 組頭役勤本に者は 高氣知
に云も平同心に不に 御代 私は支配に役に 〆五人 金百 御役に譜代
並に出に 組頭に本役に 近に格別 精勤し者は出譜代に 御代者 又は
格式に 御代者 者は 御代に 原に 川三に 歩 屋し者に 五人 勤百 仕合
本役に 組頭 日光

御社家に 御出に 者は 組頭役人 同心七拾三人に代に 御代に 後に 無に
本役に 御用は
御城内に 五人 且其外し後に 光に 徒に 下に 為用仕に 者は 日光
在勤し者は 平 本に役所に 用に 組頭に 組頭徒
上下に 用 五人に 文政八酉年同役 元慶田勤し 在勤し者は 下遠作
組頭徒上下に 用後 元慶に 者は 者に 為用 五拾俵
日光在勤に 組頭に 御用 御合有し 徒に 為用仕に 御に
元慶に 中に 慶に 年に 本に 為用し後 本人合に 拾中
後に 得に 一代 大組に後 八年に 天所 組頭役 徒長徒に 者は 地拾に
多人分 武三定 或は 四五軍も 未隔に 科 拾俵 五方に 拾 敬住居仕
手廣し後に 代 五帰方 一て 後に 組頭 只代 力仕 寛改に 松平
和泉守殿 改 五に 御後の 御に 十組に 寺組し 者得 別に 一定 平

常に如何に後輩に骨折り立扱ふ右次隣に同心に住所志村文蔵
方中村に組頭に成り後に所に得て私に長崎に組頭
後に所に日光御宮先例の非常に御後に所に得て組頭
に云出役に出人力に達に同心に長紀住出大に言に書組頭に子所
不出御後に所に長崎文に通日光組頭に御合有に後に徒歩下に用
留置に組頭に勿論平同心に乗籠に乗籠方に出者
に方仕事通徒上下に用に仕度に薬に下に出に後に
其後出に出に先般一月御長柄同組に後に四月に人に尺に作
後組頭に同に遠方に力に准に場合に出に後に出に得に見服
に後同に同に組に一御に人氣に拘自組に川に行屋薬に乗籠
に拘に後に出に徒歩に用に御用に勤に人に報出徒に
作に者に用に仕に仕事に後に今に止に後に宮行腑に出願に後に

此に徒に茶屋に上に通に大組に人数に後に長に得に長籠に掛に後に
春に百何辛出に御に川に長に仕事に通組に徒上下に用に御用に後に作
三に長に仕度に長に後に私に願に後に

七月

未年十二月日光御宮
御長崎奉行組頭志村文蔵

志村文蔵

私に組に人に見に御長柄組に勤に後に最初小に出に者に拘に外に後に拘に
長に勤に私に長に人に見に長に川に仕に勤に御に見に長別に者に後に
に長に日に先年に
御上洛に日光

御社家と長同心共に為り川口供仕い旦那御祈願
に為り金銭動列の日光立番に為り組頭人五人
五類に為り平番に小組合に為り不行幸組頭に元御方異形出動
後に役所の旦那寛政改正に三指張に為り
小金日光立番に為り役扶持五人扶持に為り旦天四季長沼来
出動の組頭後に高島御少に為り役に為り通に御代官
拾弐社御代官に為り一回出形出動組頭に平同心に勤柄に遣い
変番に為り為り寛文度
御社家に為り為り南金三反元其外節句に為り組頭に為り
出役の代官保度
御社家に為り羽織色紋の度に為り一日張弐枚の扶
持方弐人扶持元に為り御供寛政改正に組頭

後に為り日光在番御役扶持方弐人扶持平同心に
為り列の在番に今役
御家法に出出張に為り組頭に為り列に為り
後に為り出出張に為り御供に為り
一日に頭後に元に今役の減少に御代官上
後に為り今の降に組頭に為り列
出地に為り一日元御方に為り出張に為り
勤に仕度に為り光親組頭人同心七扶三人に減人数に為り
後に元に為り出張に為り出張に為り
南に為り御代官に出張に為り

宗七月

天保行事
志村又右衛門

奉願作口上覚

来申年日光山
御条清水　御宮御修復　先例通　積立金同心寺院方江　御修復有之合寄
御知古来
御社家江　御宮寺組頂戴　御修復　元来一家与　寺定法江依
之一寺之儀四寺掛相用華厳経　役者相勤　平常
住上下為用住候ハ　寛文年中掛合別段願
享保年中水戸
御社家一寺之用城内　色替下ル得共　外寺掛合候ハ　同心願ハ
保大御用命中一寺ハ　古勤方　小組合寺院住　寛政年中改正迄
同心勤向候　組頂戴　別段勤節ハ　諸組与力ハ振合
准一寺勤方年ハ　寛政八子年同二月　松平和泉守殿　書付ハ子人組
改正江　御宮組頂戴者　其代　三拝僧
寺ハ　勤中三拝僧　天正年中　川僧代
組頂役　勤中者　高氏知少し　平同心不江　御修
元役ハ　元禄年中　御修日光　在勤　寺ハ　五人扶持宛
下ル　平同心　不　五人扶持
ハ　通　人扶持宛　川僧　勤中　組頂
僧代　三拝　扶持　後　精勤者　僧代江　御修
者ハ　発ハ　川之　下ル　服　後　古来ハ　日光
御社家　御長柄　法　服　御修　知
御城内　寺ハ　旦三御寺　御宮　平同心　御修
一寺　寺院　拝寺　住上下　用住　組頂　平同心　別段　勤節
兼帯　或ハ　僧　日光　寺院　知　文政八酉年　日光　寺院　死組

[illegible]

仕方古法ニ倣ハレ武士ハ御用ニ相勤ル

役目ハ御長柄棒組御使番ニ有之候ヘ共別番ニ

番頭ヲ置ル事ハ無之候

御社家ハ同心ハ古法ニ倣ハレ其外他ハ上ハ為用仕ル者共ハ御役

筋ニ相勤ル一日ハ歌ヲ五ツ

御番頭御用有

御城内ハ其ノ下ニ同心ハ相勤ル為服仕ル者ハ組頭番頭ニ為

ケ様ニ成ル寛政ニ改ル以前ハ仕方ハ京ニ出張ル

出張ハ文同例仕事ハ通徒上下ハ為用ル出張仕ル代ル一日ニ付銀

[illegible]

天保十三寅年六月

西御代官三人

小谷四郎八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺預役口上覚

本卯年日光山
御条目ハ　御出ニ付先例ニ通相勤ル様ニ御方ニ御申渡ス仕合ニ存事
御社条目ハ　御出ニ付元本組ニ取ル様ニ申渡ス
此節之一ニ付　御出ニ付平常ニ無之役人ハ代ル　御出ニ付平常ニ無之役人ハ
此節ニ付才別役ハ役ニ格式ニ応ジ
御社条ニ云ヘ羽織色替別役ハ不苦ニ付御出ニ付
同ニ付同様ニ御出ニ付才御用ハ御出一役ニ寺格ニ応ジ小組合ニ組
仕候ニ寛政度ニ改ル組内ニ向ル組ニ名変ル様ニ取計
勤ル様ニ被仰付ル小組合ニ准シ一本勤ル様ニ
相和ル事ニ成ル書ニ天人組ニ成ル　御出ニ付持ル之格式ニ者ニ
ル様ニ致ス三格式ニ者ニ勤中之格式ニ者ニ天保十長年中ニ

引続代ル組ニ成ル本勤ル者ニ病気ニ付不ル　御出
ル支配ニ役ル様ニ致ス且ル日光ニ勤ル様ニ組ニ成ル役ル様ニ
方ニ人扶持宛ル不足ニ付年月ニ公ル通ル人扶持宛ル
ル本勤ル役ル代ル通ル人扶持宛ル
ル　御出ニ者ル様ニ成ル月之ル様ル本ル且ル御長柄用ル
ル様ル引ル様ル組ル様ル別組ル様ル者ル様ル隠寛文度ル
御手ル今三度ル扶持方ル人扶持ル羽織之所ル本組合ル為ル
ル扶持ル役ル引ル様ル度ル成ル得ル享保ル永ル役ル者ル
ル減ル様ル今般ル永ル通ル　御出ニ付一ル人ル扶持ル
者ル役ル組ル格引ル減ル　御出ル時ル人ル扶ル減ル
寺ル手ル度ル宛ル
御社条ル組ル人ル扶ル七扶ル人ル寺ル得ル其ル組ル同ル仕合

八拾人ニ付供仕度段ニ付得と相通シ候ハヽ一日延初ル仕
候ハヽ上ハ御役ニ者四時ニ高橋ニ成ル事ニ相成ル事ニ入ル
得ト寛政度ニ改正ス 御出張初ル度ニ付出張ス高橋ニ成
シ組ハ用ル之ニ付分ハ用相動度ニ付右振ハ高橋ニ成
事ニ成ル何ト事ニ入ル得ト出格ニ成ル人組ハ之ニ用ル之ニ付振
仕度段ニ 御定ニ下ル並ニ成ル義ニ付ニ成ル事ニ付上

天保十三寅年六月

河西伊之助
小笠原[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
高橋忠之助
[illegible]
矢部[illegible]
山[illegible]

一 一 三月廿日ニ出立ニ付書付
越前守殿

大目付

本所年月先ニ

志村[illegible]殿

御宮　御系譜ニ付テ長小屋其外建方ニ付人人足ハ[illegible]
百姓ハ大其場所ニ[illegible]
[illegible]

我帝ヲ敬奉仕度ニ候

大見ト

日光山

御宮　御系譜正用御[illegible]服[illegible]
御系譜ニ帝服御[illegible]不及遠慮ニ[illegible]用ル[illegible]
保服御[illegible]用ニ[illegible]
御山ト[illegible]
[illegible]通達ス　御系譜御用ニ[illegible]

二月

九日

一　[illegible]

一　[illegible]

志村大[illegible]

別紙ノ通ロ[illegible]

七月九日

[illegible]

来年正月晦日迄
御年貢米毎年無滞上納仕候
二月中穀米上納仕候年十石四斗宛
毎十月上旬中両度相揃差出申
御年貢米之内奥向御合渡し
中御用被成候ハ及御都合
六月九日

勝田将監
佐野金兵衛

十日
一 三月及月番庭田之内及ハ
十一日 増田之内及ハ

一 八幡宮ハ内々宮馬御用

十三日
一 鍬之内及ハ十二日謝書ハ勝田殿ハ
ハ三月三日ハ音組殿御知
ハ

志村大学殿

勝田将監

江戸表ハ遣ハ御用
御年貢ハ其年ハ御列ハ入ハ供ハ御
預ハ通騎馬ハ供ハ立ハ
御ハ祝ハ出府ハ書
ハ

一 関ハ佐ハ千人関ハ羽織紋付ハ

[illegible]殿に後延達[illegible]に[illegible]に[illegible]に

廿六日

一 八条ヨリ帰々段々

八月朔日

一 此供し廻状月番神宮寺豊前守殿出候上ヲ後段々外
[illegible]

一 御書色紙形礼帰見預 寺通

一 帰長柄帰見預 寺通

一 南手南ヲ後年ヲ寄し後芝ヲ書 寺通

一 紙上ヲ後年同ル

一 文ヲ如例書 寺々

一 南春山若ヲ遠帰ヲ三ヲ殺素後ヲ通ヲ遠預書 寺々

一 着殿大小ヲ後御書 寺々

右七通ヲ

口上ヲ

[illegible]

一 色紙後ヲ老中方ヲ
中上ヲ
[illegible]

一 礼帰見ヲ後ヲ
書ヲ通ヲ
[illegible]

[illegible]三月十三日[illegible]八条ヨリ老ヲ

一 礼後ヲ供[illegible]支後ヲ羽織ヲ色紙ヲ不無切ヲ
帰ヲ後ヲ同心ヲ同板ヲ人ヲ殺ヲ色紙ヲ
成ヲ板仕後 寺預

一 北日光[illegible]同心ヲ御礼帰見ヲ後光橋
ヲ通ヲ 帰ヲ後ヲ無板 寺預
右ヲ一回 寺預ヲ切上

六月

御供方
廻預

知四月九日所代ヶ浦

帰見不表成

口上覚

安永度

市社集ニ良光勤シ共是亜稜ヲ以伺ハ

茶　市長柄帰見仕度事願ハ如実ニ其

芦ヶ浦ハ所ハ遠方柳ハ下ニ表ハ上ニ得ス

之般ニ夜ヶ年久ニ成ヶ更ニ市長柄シ

以後ヶ不事ハ関ハ大稜ヲ方芦ヶ浦ハ

帰ニ成ハ成ニ事ハ方ヶ表ハ成ハ

向方柳ハ見ニ参　慨シ良社ハ成ハ

下ハ達帰見ハ　伺ハ上ハ成ハ仕度ハ

事願ハ以上

市稜方

組頭

寅八月

知四月及伺

口上覚

社ハ伺ハ方ハ　帰ハ以ハ芦ヶ物シ成享保安永度関ハ大関ハ柳ハ

寛文度成ハ上ハ処ハ安永度ハ細ハ三ハ柳ハ帰ハ事ハ右シ良ハ下

今シ夜ヶ一日今三ハ光芦ヶ物ハ成ハ

市長今有芦ヶ亜ヶ関ハ大組頭ヶ稜羽成油ヶ物ハ立附

一日達ハ上下達ハ中ハ接柳方一日式人柳ハ市長ハ上ハ

達具ハ芦ヶ日光道式大ヶ書ハ勤ヶ者ハ限ヶ式柳ハ

組ハ夜ヶ別限ハ所ハ帰今羽シ芦ヶ至一稜ヶ以ハ中ハ今三ハ

芦ヶ事成ハ帰ハ成ハ言ヶ保度ハ城ハ表ハ立保度シ書成ハ

不仕ハ方ハ成ハ三ハ表ハ柳ハ定式大ヶ書ヶ方ハ城切ハ表ハ二ハ帰ハ方

シ分限式柳ヶ中ハ成ハ三ハ表ハ城ハ表ハ

能ハ見ハ五柳ヶ成ハ表ハ成ハ分表

御家筋ニ付ニ而ハ初ヲ[illegible]ニ而ハ[illegible]方ハ[illegible]ニ組頭ニ[illegible]用ニ[illegible]
仕度一同ニ願ハ[illegible]ニ[illegible]中ニ[illegible]

寅八月

御代方
組頭

口上覚

雜相成事

私共儀ハ[illegible]ニ[illegible]ニ[illegible]ニ

一 晃道中清掃る八足代下に市況文[illegible]

一 結束物用紙　八拾之

内 銀拾枚八分四厘に付
黄金七枚二分八朱

一 柿色郵便　八拾之

一 桐油　八拾之

一 [illegible]　八拾之

一 同心八拾人に扶持方弐人扶持宛下

一 道中出役者八拾七人宛上下六泊宛

一 於道中毎日出張り八拾之宛

一 貝四方於日光山御宮道具[illegible]八拾之

一 梶　八拾三貫

一 折敷　八拾三枚

一 [illegible]　八分

一 扨子　八本

一 [illegible]　三ツ

一 鍋　十

一 桶　十六

一 柄杓　八本

一 貝杓子　八本

一 行燈　三ツ

一 味噌　八斤三合

一 炭　壱俵六拾六貫

一 薪　百六拾六束

一 油二壱合　六合

卯三月十二日改八ツ半時迄

言葉不分明ニ付出勤ス通
不殘出役可致旨

○右之通昨日役所ニ於て逃出ス者百姓中上ル

一人足拾七人

宗八月

御代方
組頭

口上覚

今般
御年貢米相納ル用ニ罷出ル者ハ夜道仕ル
先達ハ等閑ニ相不届ニ付不届ニ
中上ル然ル又享保年中ニ度節御示ニ合ル
小者年ニ付夫ニ付出役
通ル今出者三人ニ逃度事ニ付右之出勤

岡部

右逃ル振ル

□

考ニ上其御用ニ付仕度百姓事願ル以上

宗八月

御代方
組頭

口上覚

日光
御案内ニ付出役ス 御年貢
御成一ヶ月ニ付
今般ニ而冬ニ入 御年貢
一右御用ニ付
被下ル
ニ付御代
又十二月服ル

卯月九日請紙ノ写

書面ノ通ニ付

○

組ヒ因心因様し
服下稔い

合

組ヒ紙ニ付き別紙羽織同つき九羽織紋附之御文
ニて相渡ば

一 同

上野し元さ一同の後羽織脚半共用仕り後ニ
事稔い

一 組ヒ紙ニ付き服し後さ出永度し言指右羽織袴し上
本様半天出用に得ざる般し後さ重保度
ニて指右羽織袴し後さつまみ上仕度事稔い

右ニて稔ば

一 同日右着服し後一日半天出用に得ざる般
も右様ニて稔ば

一 組ヒ紙ニ付一同両異の後ニて合相出ず後ニ

脚半下ものき不用之後
了後い切草鞋紙足袋了
用い

□

不用之後ニ柄有人合
ニ来お用赤鞘ニ
し用之ニ付ニ用ニ方
ニ存い

◡

柄袋不お用い

◟

脚半下ものき仕り不苦ば一同切ニて
紙足袋お用り不苦ば

一 大小拵し後さ黒ば鞘ものし巻柄黒さ赤ニて
丈有合ニお用度事稔い但赤ニて赤柄明金
造ニ新お用り不苦ば
但道中後ニ雨ば晴雨ニ柄袋相用り不苦ば

右ニ後事伺い上

宮八月

市谷方
組ヒ氏

七日

一 於門表内供八拾人兵ば足並稽古数度有後地発言ば小市宮遠近

一　来十一日ニ拙者相住居候中後

十一日

一　拙者内ヨリ八拾人ニ内作事及組田中又次郎火事後之事病気
暇願ヒ不申外不残本陣ヨリ拙者内ヨリ並木作次郎

起請文前書

本多年四月日光山
御宮　御普請ニ供ス　御作事ニ付出張ス中上ニ不及ス御普請
疑遣背不仕心ニ及ス出張ス節ヨリ供中不作法ヲ以御部屋
ヲ大ニ変不仕お互ニ意恨ヲ懸ス作法不及中伸ヲ百
ヲ合かさらず決ス作事変ス事

一　御普請大切ニ取扱ス納ニ後入ス不用法不仕様心掛ル事
一　御普請ニ付元禄四月ヨリ元四月ヨリ迄ニ日ヲ数ス事
　　此内ニ付月ヨリ後ニ不用事ヲ申ル事
一　組頭ニ後ニ平ス左様ニ致ス事ニ付供方ヲ別ス大切
　　ニ後ヲ百事中人ヲ百ニ百ニ後ヲ背中百変ス事
　　此世ニ後ヲ組頭ニ後ヲ部屋ヲ後ヲ日事ヲ後ヲ
一　因ヲ中意ヲ得遣ニ後ヲ飛ヲ見ル第一ニ用不申ル其ヲ
　　ヲ上ス事
一　組頭中ニ後ヲ自得不仕後有ニ付再度及掛合ニ上ル分
　　此中ニ有ニ付ヲ組ヲ様ニ仕ス事
一　御普請中ニ為ス御普請ニ付雑不仕様ニ中合ス
　　ヲ下ニ事

一 日光山

御遍宥ニ付 [illegible] 別ニ召捕 他出不仕 [illegible] 諸勝負

事決ス不仕 [illegible] 仕 [illegible]

[illegible]

附 遠国 諸端御用ニ付 相互ニ [illegible] 合 [illegible] 仕事

一 只金 [illegible]

上覧ニ [illegible] 事 [illegible] 仕 [illegible]

一 御用中大酒不仕 [illegible] 掛 [illegible] 事

市 [illegible] 遠 [illegible] 者

梵

大

別

神

八

神

天保十三壬寅年八月十一日

志村又右衛門殿

屬

件

一平同心

佐々木頼助 [illegible]

以下五十九人

同心世話役

田中郡次 [illegible]

以下九人

同心組頭

河西伊三郎 [illegible]

以下九人

九月九日

一 三閣及用方武田南之御迎文通疾と御者一二度如西足と疗療出来者
延引者御以ノ光寿院尊院廉中之御知以ノ甚恐入ノ所中也
重報入ノ所中也

組頭預白後ノ所ノ廉中上ノ書付

日光山

御系譜ノ供奉組頭中之南蛮服ノ後ノ月組頭ノ預ノ中上ノ如寛文度
享保度ノ事南蛮ノ欠掛茶 御上下ノ為用預中絵ノ欠文間中上ノ如
別ノ紙ノ上別紙組頭ノ書面写ノ如
御系譜ノ供奉ノ掛寛文度ノ事享保度ノ欠掛ノ一向書簡ノ
強如寛政度ノ改ノ度初ノ所ノ紙ノ外何章図ノ上ノ次第書ノ様

天保評要
長村文書

一 紙重ノ事預ノ
御上下ノ後ノ文政度小姓書簡ノ度ノ節中 中上ノ月分 加度御使ノ所ノ御今ノ
成候如図人接ノ所ノ通
八重ノ子人図忠組頭御上下ノ用ノ後先達ノ御今者ノ其言及ノ書ノ
ノ達者ノ如形別紙 数書 茶ノ預ノ再度ノ御今ノ後一覧ノ事先
達ノ中ノ通中ノ通ノ通 組内五編方ノ後 御上下ノ用ノ之ノ
第ノ使者ノ大御殿ノ中後ノ今ノ仕事ノ已ノ後ノ仕事表之 御上下
改ノ用度ノ新規ノ事預ノ同様ノ後ノ不容易ノ所ノ何ノ是迄仕事
ノ通 組内ノ所ノ用ノ格別ノ仕事表之ノ所ノ用度ノ事ノ御定ノ所ノ
新度ノ格ノ別ノ表紙書面ノ御函ノ御上ノ通ノ上

十二月

山崎嘉平

加度御使

右之品種不日用預ゆえを以て[illegible]
未延聖年月後快気なし終に文政十二丑年十一月晦日死去に及ぶ其後
折々年其後に寄命に拙如人今般出供所用に付名を組改む也
[illegible]仕候ハ時良き類の後に死に万仔細来出候遅延に付
相仕候事を[illegible]上

寅九月

右の八月朔日之処に記有之に[illegible]
[illegible]生年八月朔日より記[illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]
志村又[illegible]

十一日

一 [illegible]

十四日

一 [illegible]
[illegible]

[illegible]人[illegible]
志村又[illegible]

事卯年[illegible]月日光心
[illegible]宮 [illegible]
[illegible]月申[illegible]
[illegible]者三人[illegible]
[illegible]仕候事を[illegible]上

[illegible]人[illegible]
志村又[illegible]

寅九月

一 [illegible]

元亀四月

一 [illegible] 預書 [illegible]通

一 [illegible] 城判形[illegible]何書 [illegible]通

一 [illegible] 何書 [illegible]通

一 [illegible] 預書 [illegible]通

一 [illegible] 何書 [illegible]通

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御先御行列安按御行列外此先差年寄元〆
此儀ハ五郎此先供仕候得共差新規〆通御行列
お三方御文刺版ものの
右〆候事御仕立
宮九月
志村又太郎
志村又太郎

一
来卯年正月晦日
御宮　御参詣ノ代　御行列ハ駕籠馬ハお三方ハ
御差出れと肩衣袴ものの
羽織袴ハ御稽古用ハ仕事着
羽織袴ハ御稽古用ハ仕事着
羽織袴ハ御稽古用ハ仕事着

一 草履百七人
一 馬具類弐人
一 當分給者七人
合七人

一 床机類不苦候
一 具足類之儀ハ雖無之用之候ハ
一 草履ハ用之候ハ二歩ハ草鞋ハ
用之候ハ不苦候
一 具足櫃持ハ被第人傘其外家財馬持荷
駄等ハ拙者家来部屋非番ハ家来何レ
ハ不苦候
一 供ハ者笠ハ雨具ハ不苦候

書面通ニ
書面通ニ
書面之内具足櫃其外ハ先ハ一旦布衣以下千石以下
ハ持ハ候ハ不苦候
ハ四人ハ家来ハ武器ハ書面之通ニ

付皮笠ハ不苦候
一 侍者殿常ハ給ハ七ハ切ハ刻羽織
九間袴又ハ半ハ股引切草鞋雖足袋
ハ不苦候
一 仲間常ハ者板脚半ハ不苦候
但墨ハ不苦
不苦候
一 弁当ハ合羽ハ用ハ仕ハ
不苦候
右箇條ハ数年間ハ仕上

寅九月

人ハ所奏
志村又右衛門

書面笠ハ不苦
書面ハ者板脚半ハ不苦
ハ合羽ハ不用
書面ハ不苦
書面ハ弁当ハ不用
ハ合羽ハ不用了
書面ハ箇條ハ
一ハ不苦

帥長柄見舞ニ長組員ハ組長出席候
由報告ニ付之書付

手人ハ行英
志村文蔵

日光山

帥参詣ハ代帥行列
上覧ニ付　帥自ら家光年帥長柄ハ出足ニ長
和太郎ハ一回登　概住　本多忠也帥通奥
参詣　帥見仕度事ハ甚ニ代番組
恩組ハ代ハ帥見仕度候ハ代番組　石塚堂
概住度事ハ出長中上ニ付上

宮九月

手人ハ行英
志村文蔵

組員ハ出足ハ服ハ後者の書付

書面見ハ組ハ代帥長柄
帥見番ハ不及

事卯年四月日光山
帥宮　帥参詣ハ代組恩番服ハ後者ハ
御供ハ不申

一

当十月十一日ニ内足並稽古ニ帥長柄ハ
出ハ代帥羽織脚半ハ代番ハ甚化合
未羽織脚半ハ代番ハ日心組ハ第日心
名服ハ一日服ハ半人組ハ半列衣
羽織日心ハ九羽織有紋ハ紋無紋
不苦ハ

但安永五申年三月十三日稽古
ハ羽織ハ平員ハ代番羽織ハ自ら
稽古服ハ三ハ番ハ長ハ

一 此供ニ差図紙ハ結び文ニ成ス 志賀論ス

弥事ニ切りニ仕候中紙不苦ハ

但高橋家ニ文ハ此ハ無ハ御永ニ候ヘ

結文ハ志賀ハ論し上ハ御ハ文と等ハ

ニ成ス

書面或ハ論し上ハ組ハ

ハ図ハ 図様ハ引ハ

一 図ハ一日ハ文ハ用仕候ハ

但御永家ハ文し込ニ成ス

書面ニ後ハ不用ニ成ハ

組ハ図ハ此ハ波腰ハ文ハ下ハ自分腰ハ文

一 下ハ文ハ仕ハ 不苦ハ

書面ハ通ハ

一 一図切りニ文ハ 雑足代ハ御用不苦ハ

大小ニ後ハ 巻物ハ 表装ハ

書面ハ表ニ後ハ 市人ハ

要ハ有合ハ御用ハ込 朱鞘ハ 御用ハ

月ニ男ハ御用ハ

人金造ハ 御用ハ 不苦ハ

一 腰ハ通中 晴雨ハ 柄袋ハ 掛ハ 不苦ハ

書面柄袋ハ後ハ 不用ハ

一 腰ハ通中 夜ハ ハ市ハ列中組ハ

腰指机灯路ハ 自分組ハ 私組ハ

御用不苦ハ

但御永家ハ文ハ此ハ

一 市ハ列

上覧ハ 御ハ文ハ此ハ供ニ 正装通ハ 服

ハ文ハ 心得ハ此ハ

本通組図ハ 何中ハ

書面ハ通ハ

宝九月

手代所兼

志村又蔵

十二日

一 將監殿ゟ文通

志村又右衛門

此月分御所様ゟ遣書写之通御達ゟ有之

しゝ右之通被仰渡候ゟ後ゟ歩行

九月十八日

勝田將監

別紙ゟ者南七月中ゟ書出し之通

ゟ者方之又四郎ゟ書出中

九月十日

九月青貝分御所様ゟ之通

目先

御年貢ゟ者之通ゟ三度ゟ之ゟ

一 同郡ゟ者ゟ米減ゟ人数ゟ出ゟ事

一 同郡ゟ者ゟ羽織ゟ着用ゟ者ゟ

一 ゟ人完ゟ者ゟ事

一 此ゟ内ゟ外ゟ内ゟ

ゟ事

但ゟ不入之ゟ

ゟ事

一 竹ゟ内出書ゟ

上ゟ所ゟ通ゟ

南十月中ゟ度ゟ

ゟ事

ゟ者ゟ

ゟ二ゟ

ゟ大

ゟ所

ゟ

ゟ

ゟ

一 同所ニ居候手人員数一市兵衛ヶ原通ニ而ハ無之通ニ
ハ事

但此度用件ニ付人員差引除の事

布通何方ニ而ハ中人員差引之上

九月

七月十三日ニ月番方年寄書

日光

侍弥人ヶ原

一 市成ニ付市郎列市郎布衣以上ハ後人弐千石以上ハ武器具足
梶共ニ同樂ニ入申候ヶ原ニ付ハ侍ハ同樂ニ附ハ不申人数
ハ家来ハ御百姓ニ付先ハ遣ハ事

一 布衣以上并ニ小姓ニ小納戸弐千石以下ハ具足梶同樂ニ入申候

一 家来ニ而侍ハ同樂ニ附ハ一人ハ家来ニ而ハ
ハ書ハ具足梶ハ同樂ニ入不申ハ人ハ遣ハ事

布通ニ付ハ一人ハ伝ハ上

七月

廿三日

右ハ書今朝着

勝將監殿

佐木三蔵

柳本左平

吉村又左衛

ハ書成帰ハ使ハ月番後ハ今ハ西ハ書ハ書ハ後ハ
布和ハ出ハ遣ハ成ハ西和ハ

一 右之書[illegible]

一 別紙七月中[illegible]

九月 廿三日

[illegible]